

室町時代

鎌倉府が置かれた室町時代、その後戦国の世に

後醍醐天皇ごだいごてんのうの呼びかけに応じた新田義貞にっ た よし さだなどの攻撃で、14代執権北条高時ほうじょうたかときと一門、家臣が自害して鎌倉幕府は滅亡。後醍醐天皇の「建武の新政」けんむが始まり、鎌倉には足利尊氏あしかがたかうじの弟・直義ただよしが入ってきます。しかし新政はまもなく崩壊、尊氏が京都に室町幕府を開きます。

尊氏は、鎌倉を武家政治の重要な拠点と考え、鎌倉府を置いて子の基氏もと うじを鎌倉公方く ぼう（長官）とし、関東と甲斐・伊豆を統治させました。公方の補佐役を関東管領かん れいといい、上杉氏うえ すぎ しが世襲しました。

鎌倉府が置かれたことで、鎌倉は東国の中心として商工業が盛んになり、にぎわいました。その後、鎌倉公方が京都の将軍と対立、公方と関東管領も争うようになり、関東は関西よりも早く戦国の世に入ります。そうしたなか、東国の中心として栄えた鎌倉は、徐々に衰退していきました。

1380^{こうりやく てんじゆ}(康暦2・天授6)年

めいげつ いん
明月院 開基^{うえすぎのりかた}／上杉憲方 開山^{みつしつしゅごん}／密室守厳

鎌倉といえばアジサイという イメージのもととなった寺

元は禅興寺(廃寺)の塔頭。アジサイ寺として有名で、鎌倉の花の寺の先駆けになりました。釈迦如来像などが彫られた、鎌倉最大の明月院やぐらがあります。6月のハナショウブ開花期と、12月の紅葉期のみ本堂奥の後庭園が公開されます。



参道はその多くが日本古来の品種ヒメアジサイ

1436^{えいきょう}(永享8)年

ほんがくじ
本覚寺 開山^{にっしゅつ}／日出

日蓮ゆかりの夷堂跡に立つ、日蓮宗の寺

小町大路^{なめりがわ}が滑川を渡るところに、源頼朝が幕府の守り神として創建した夷堂^{えびすどう}がありました。今も夷堂橋^{みなものよりとも}があります。日蓮が滞在^{にちれん}していたお堂で、その後ここから身延山^{みのぶさん}へ旅立ちました。夷堂は鎌倉幕府滅亡のときに焼け、その跡につくられたのが本覚寺です。



「にぎり福」という手描きのお守りがかわいい



仁王門をくぐると、大きな瓦屋根の本堂が見える

江戸時代

観光地としての土台を築いた江戸時代

戦国期の内乱で衰退してしまった鎌倉は、1603（慶長8）年、江戸に幕府を開いた徳川家康が、鎌倉を「武家政権発祥の地」として重要な社寺の保護に力を入れたため、参詣や遊山の地として注目され始めました。武士や僧侶の間で源頼朝ゆかりの史跡巡りが始まり、東海道を人々が行き来するようになると、次第に庶民の間でも「行ってみたい場所」として人気が高まっていきます。この流れの火付け役となったのが、徳川光圀編纂の『新編鎌倉志』でした。光圀自身が鎌倉を巡遊した際に記した見聞録『鎌倉日記』をもとに、約11年の歳月をかけてつくらせた全8巻に及ぶ『新編鎌倉志』は、今でいう「ガイドブック」の原型のようなもので、多くの人々を鎌倉へといざないました。名所旧跡が絵とともに詳しく解説されたこのガイドブックを手にも、江の島から金沢（現在の横浜市金沢区）、鎌倉へと足を延ばして旅をするのが定番のルート。その人気は、旅人が大挙して押し寄せる江の島が描かれた歌川広重の浮世絵からも見て取れます。江戸中期から後期には、この『新編鎌倉志』に似た形で『鎌倉名所記』や『鎌倉絵図』といったガイドや地図も次々と刊行され、いっそう現在の観光地に通じるイメージが確立されていきました。

そして幕末期には、異国船の来航に備えた海岸防備の対象地として鎌倉の海沿いにも砲台がつくられ、幕末の志士、吉田松陰や坂本龍馬なども鎌倉に足跡を残したとされています。

1636^{かんえい}(寛永13)年

えいしょうじ

英勝寺

開基／英勝院

開山／玉峯清因

風雅な佇まいを残す鎌倉唯一の尼寺

徳川家康の側室の一人、お勝の方が、祖先の太田道灌が住んでいた屋敷跡に建立させた、鎌倉唯一の尼寺。繊細な彫刻や装飾を施した山門、仏殿、鐘楼、祠堂、祠堂門(唐門)など当時の貴重な建物が数多く現存しています。徳川家の支援を受けて栄えたこともあり、お堂などに三つ葉葵の紋を見ることができます。



見事な2階二重門の山門。
1階の軒下には竜や虎などの美しい彫刻が

かまくら めいしよき

鎌倉名所記

鎌倉のガイドブックのさきがけ

庶民の遊山客が数多く鎌倉を訪れた江戸時代中期には、名所巡りのための携帯用ガイドブックが盛んに刊行・販売されました。その代表といえる『鎌倉名所記』は、江の島や鎌倉、金沢八景などの名所案内と古跡の由来が記された木版刷りの冊子で、その地図版といえるガイドマップ『鎌倉絵図』も数多く刷られました。これらは徳川光圀の命で編纂された鎌倉地誌『新編鎌倉志』をもとにつくられたといわれています。



鶴岡八幡宮の鳥居が描かれた表紙。
“江の嶋、金澤”の文字が

鎌倉を深掘り

江戸時代に広まった鎌倉名物

江の島詣での後、七里ヶ浜を通り鎌倉へ。江戸時代に人気を集めたルートには茶屋も多くあり、初ガッオや鎌倉エビなどの名産品は江戸から訪れた観光客にも大評判。極楽寺坂下で300年続く和菓子店「力餅家」の力餅は、鎌倉土産の走りであり今も旅の土産として人気です。